

1Ba-1 家族とのかかわりが子どもの我慢強さの形成に及ぼす影響

(京都女子大) ○表 真美 高岡裕子

目的 近年の低年齢化する少年犯罪や学級崩壊現象には、子どもの「我慢」の不足が何らかのかたちで関与している例が少なくない。子どもの耐性、いわゆる「我慢強さ」は幼少期からのさまざまな経験によって形成されるが、少子化や物質的豊かさなど、現代の子どもたちをとりまく環境は、「我慢強さ」の形成にマイナスの影響を及ぼすことが懸念される。そこで本報告では、小・中学生の「我慢」の実態とともに、家族とのかかわりと子どもの「我慢強さ」の形成との関連について明らかにすることを目的とする。

方法 2000年7月から11月に、K市内の私立小学校5・6年生78名、I市立小学校5・6年生118名、およびI市立中学校1年生155名を対象に自己作成による質問紙調査を集合法により行った。主な調査内容は①親の養育態度、②家族コミュニケーション、③自己受容、④目標意識の4項目である。回収した351票すべてが有効票であり、s p s s統計ソフトにより分析した。

結果 得られた知見は以下の4点にまとめることができる。

①親の養育態度に関しては、「高価なモノを欲しがったとき」すぐに買わない態度を示す親の子ども、親に「勉強しなさい」とがみがみ言われない子どもに「我慢できる」割合が高かった。②会話頻度などの家族コミュニケーションは「我慢強さ」の形成に有効に働いていた。③自己受容が高得点の子どもは「我慢できる」割合が高くなった。④目標意識を持つ子どもは「我慢できる」割合が高くなった。